

国・千葉県・鴨川市における人口の将来展望に対する考え方の経過

国	千葉県	鴨川市
● まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（平成26年12月27日閣議決定） ・2030～2040年頃に出生率人口置換水準（2.07）まで回復するならば、2060年に総人口1億人程度を確保し、その後2090年頃には人口が定常状態になることが見込まれる。 →<u>2060年に総人口1億人程度を確保</u>	● 千葉県人口ビジョン（平成27年10月） ・千葉県の将来人口 【パターン1】 合計特殊出生率について、本県在住者の希望する子どもの数（2.2人）が全国（2.2人）と同じであることから、国の長期ビジョンにおいて示された合計特殊出生率を共有し、2030年（平成42年）に1.8、2040（平成52）に2.07まで上昇すると仮定。 【パターン2】 【パターン1】の仮定に加え、2015年（平成27年）以降、転出者のうち27.3%の人が、5年間で本県に戻ってくるものと仮定。 【パターン3】 【パターン1】の仮定に加え、2015年（平成27年）以降、転出者のうち53.1%の人が、5年間で本県に戻ってくるものと仮定。	● 鴨川市人口ビジョン（平成28年1月） ・合計特殊出生率： →2020（平成32）年 1.50、 2030（平成42）年 2.10達成 2040（平成52）年の総人口28,652人 ・移住・定住： →約2,500人増 ・総人口 →<u>2040（平成52）年には約32,000人の人口を維持</u>
● まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版） ・2040年に出生率が人口置換水準と同程度の値である2.07まで回復するならば、2060年に総人口1億人程度を確保し、その後2100年前後には人口が定常状態になることが見込まれる。 →<u>2060年に総人口1億人程度を確保</u>	● 千葉県人口ビジョン（令和2年改訂版） ・千葉県における将来人口の試算 【シミュレーション①】 合計特殊出生率が2030年に1.8、2040年に2.07まで上昇した場合（国のシミュレーションを準用）。 【シミュレーション②】 合計特殊出生率が2035年に1.8、2045年に2.07まで上昇した場合（国のシミュレーションを準用）。 【シミュレーション③】 合計特殊出生率が2040年に1.8、2045年に2.07まで上昇した場合（国のシミュレーションを準用）。	● 鴨川市人口ビジョン（令和3年3月改訂） ・合計特殊出生率： →2020（令和2）年 1.50、 2030（令和12）年 2.10達成 2040（令和22）年の総人口27,063人 ・移住・定住： →約2,500人増 ・総人口 →<u>2045（令和27）年には約30,000人の人口を維持</u>
● 地方創生2.0（2025年～） ・人口規模が縮小しても経済を成長させ、地方を元気にする ・少子化対策により今後の人口減少のペースが緩まるとしても、<u>当面の人口減少が続くことを正面から受け止め、適応策を講じる</u> ・若者や女性にも選ばれる地方を創る	● 千葉県人口ビジョン（令和5年改訂版） ・千葉県の将来人口 国立社会保障・人口問題研究所の都道府県推計（平成30年推計）に準拠して推計。	